

2022年度業務実績報告書

提出日 2023 年 2 月 11 日

1. 職名・氏名 准教授・山下知晃

2. 学位 学位 博士、専門分野 会計学、授与機関 京都大学、授与年 2017

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
<p>① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 簿記原理（4単位）、主たる配当年次：1年生</p>
<p>②内容・ねらい 本講義では、簿記の初学者を対象に簿記の基本的な仕組みや各種重要な取引の処理方法などを学習する。受講生が本講義を受講することで、簿記の入門的な知識から日商簿記3級程度の知識を身につけることができるように講義する。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 受講生が知識を定着させることができるようにするための工夫として、定期的に宿題に取り組んでもらった。また、Google form を通じて、受講生が質問できるようにし、その質問に対するフィードバックを定期的に行うように工夫した。最後に、北陸財務局の協力を得て、実務家による講演（3名、同日2コマ）を行ってもらったなど、実践的な学びの機会を設けるように努めた。</p> <p style="text-align: right;">【ゲストスピーカー 3人】</p>
<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 簿記論Ⅰ（2単位）、主たる配当年次：2年生</p>
<p>②内容・ねらい 本講義では、簿記原理の内容(日商簿記3級レベルの内容)は理解していることを前提に日商簿記2級レベルの内容について学習を行う。本講義は実質的に簿記原理と連続した内容となっており、株式会社簿記の前半部を扱うことになる。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 基本的には簿記原理と同じような工夫を行った。まず受講生が知識を定着させることができるようにするための工夫として、数回、宿題に取り組んでもらった。また、Google form を通じて、受講生が質問や感想を述べられるようにしたり、講義動画のアップロードをしたりするなど、学生の学習に便宜を図った。</p>
<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 外書購読（2単位）、主たる配当年次：2年生</p>

②内容・ねらい

本演習では最新の英文記事を利用し、受講生の英語読解力の向上を目指した輪読を行う。それに加えて、二回に一度、小テスト（語彙）や宿題（英作文）を課すことで、英語で自分の意見を発信するトレーニングをする。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

本講義では、学生が内容自体に興味を持てるように、可能な限り最近の話題を扱った英文記事を選び、課題英文とした。また、自分の意見を英語で表現するための練習をする、ということを目指し、①まずは他の受講生と日本語でよいのでディスカッションを行ってもらい、自分の意見を整理した後、②自宅で（最近のツールを活用しながら）自分の意見を英語にしてもらった。講義では自分で準備した英語をできる限り覚えて発表してもらったようにして、自分なりに「得意な」英語表現を身に付けられるようにしてもらった。また上述のとおり、小テストを頻繁に行い、英語の語彙の強化を図った。

(2)その他の教育活動

内容

4. 研究業績

<b>(1)研究業績の公表</b>	
①著書	【 本】
②学術論文（査読あり）	【 本】
③ その他論文（査読なし）	【 本】
④学会発表等 *1. <u>山下知晃</u> 「のれんの会計処理をめぐる利害関係者の見解—サーベイ調査の結果から—」、日本会計研究学会中部部会第 148 回全国大会統一論題報告。 *2. <u>浅見裕子</u> （主査）・宮宇地俊岳・米山正樹・山下知晃 「のれんの会計処理に係る包括的考察」、日本会計研究学会第 81 回全国大会スタディ・グループ最終報告。（山下は当日、オンラインにて米国から参加したが、報告自体は主査の浅見教授によって行われた。）	【 2 件】
⑤その他の公表実績（セミナー等での報告） *1. “Estimating a Firm-Year Measure of Conditional Conservatism for Non-U.S. Firms: Evidence from Japan” (with Keishi Fujiyama), 第 14 回一橋会計研究会 (HARS) 報告。 *2. “Estimating a Firm-Year Measure of Conditional Conservatism for Non-U.S. Firms: Evidence from Japan” (with Keishi Fujiyama), 京都大学会計学セミナー (2022.12.17) 報告。	【 2 件】
その他、学部内の研究会でもセミナー報告を行った。	
<b>(2)科研費等の競争的資金獲得実績</b>	
【研究代表者】 科研費助成事業 若手研究（「条件付保守主義の計測方法に関する問題点の解明とその改善方法の探求」）、2020 年 4 月より継続中（最終年度）。	
【研究分担者】 科学研究費助成事業 基盤研究(B)（「のれんの会計方法に係る当事者の認知についての理論および実態調査研究」）、2022 年 4 月より継続中。	
<b>(3)特許等取得</b>	
<b>(4)学会活動等</b>	
日本会計研究学会スタディ・グループ「のれんの会計処理に係る包括的考察」への参加。	

## 5. 地域・社会貢献活動

公開講座・会計学入門講座 2022、「複式簿記の基礎のキソ」、対面開催、2022年12月3日実施。  
金津高校、探求アドバイザー（桑原先生、廣瀬先生との分担）。

## 6. 大学運営への参画

### (1)補職

### (2)委員会・チーム活動

DX委員会、輸出管理委員会（サバティカルのため、ともに後期より）  
※現時点で輸出管理委員会については参加が必要な会議などは行われていない。

### (3)学内行事への参加

### (4)その他、自発的活動など